

歴

史民俗資料館だより

No.30
文化生涯学習課
資料館係

市内文化財3件が新たに 市指定になりました

桜川市になって初めての指定文化財として、9月24日に3件が告示されました。

◆二所神社本殿（西小墾）



江戸時代
宝永5年
(1708)の
建立で、市内
でも一際豪壮
雄大、ほぼ全
面に裝飾彫刻
を施した壮麗

な建造物です。大工棟梁は成田山新勝寺三重塔や、薬王院三重塔（真壁町椎尾）、小山寺本堂（富谷）、楽法寺本堂（本木）をはじめ数々の建築を手掛けた桜井瀬左衛門で、彼は当地（中郡羽黒）の出身です。

◆木造五智如来坐像（楽法寺）

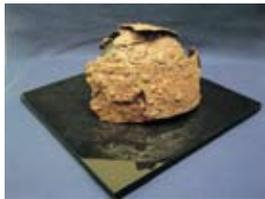
雨引観音楽法寺多宝塔（県指定文化財）の中に安置される大日、阿闍、宝生、阿弥陀、不空成就の5体の仏像です。



作例が少なく県内では唯一。各像の底に墨書があり、室町時代中期に真壁氏の当主等が楽法寺復興に際して造立したことが分かります。

◆北椎尾天神塚古墳出土遺物

一括（桜川市所蔵）



真壁町椎尾にあつた5世紀中期の円墳から発掘された遺物群で、数多くの鉄剣、鉄鏃など

豊富な鉄製品、勾玉や玉類などに加え、県内初出土の三角板革綴衝角付冑（写真）も含み、大和朝廷との関係が推測されています。

歴史のことは 11月

「とももと（朝幹）が子孫たるとべく候はば、ようがい（要害）をこしらえ、用心昼夜ともに油断あるべからず候」

『真壁朝幹置文』寛正七年（1466）

真壁朝幹の子孫であるならば、要害（城）を築き、昼も夜も油断なく守りなさい。

これまでに紹介した越前・朝倉宗滴、相模・北条早雲のことば。戦国時代を知恵と用心で生きた武将の言葉は、真壁城主・真壁朝幹も語っています。室町時代に没落した真壁家を苦難のり越えて再興した朝幹。彼が息子に語る「要害（城）」の必要性は戦国の世の幕開けとともに、家と地域を命がけで守る緊張感を伝えています。真壁城跡の発掘では、まさに朝幹の子や孫の設計によって、戦国の城・真壁城が築かれたことがわかってきています。

国史跡・真壁城跡 発掘調査現地説明会 開催のお知らせ

平成21年度・真壁城跡の発掘調査の成果について、現地説明会を開催いたします。

■日時／12月6日（日）

午前の部10時30分

午後の部13時30分

※午前・午後は同じ内容

■場所

真壁城跡（真壁町古城）

※会場は真壁第一体育館の東側になります

■内容／真壁城跡の発掘で出土した戦国時代の堀跡や出土品を公開いたします。

■参加費／無料

説明会資料を配布します。

■申込方法

当日、現地でお申し込みください。定員はありません。

■駐車場

真壁第一体育館（無料）係員が誘導いたします。

■問合せ先

文化生涯学習課文化財係

☎58-5111-751311
1、内線3224

有料広告掲載募集中！

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中！

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ